

私事ですが息子が女王谷(現在ギャロンと呼ばれる地域のチベット語の原名“rGyalmorong”の意識)にある丹巴の中学校へ入学しましたので、その折に見聞きした中学校を巡る事情の一部をご紹介します。

丹巴では小学校と同じく中学も義務教育で公立ですが当地では入学試験があります。町の小学校に1000人位の子供を集めて入学試験を2回行います。1回は成都の有名中学の試験と同じ水準で、もう1回は普通の授業で使う教科書の水準です。この2回の試験成績

を総合して子供の学力をランク付けし、県内にある3つの中学校と数種類の特別クラスに振り分けます。

中学校はランク付けされていて、丹巴中学校、丹巴第二中学校、半扇門中学校の順です。丹巴中学校には試験のトップ40人が入れる特別Aクラス(仮称)と次の50人が入れる特別Bクラスがあります。丹巴第二中学校と半扇門中学校にも各学校のトップ50人位が入れる特別Cクラスがあります。

特別Aクラスは成都の有名中学の一つと提携してほぼ同じ授業を行っていて高校進学に有利なため、入学試験で良い試験成績を得られるよう親は子供を励まします。丹巴中学校は町の郊外にあり完全寄宿制です。学校の周辺は農家と少数の雑貨屋や食堂だけがあり、且つ集落から川で隔られているため、子供の生活環境が保護されています。子供は土曜日の昼に自宅へ帰り、日曜日の夕方に中学校へ戻ります。



山の中の割には広く整備された校舎の一部

丹巴第二中学校は町の中に、半扇門中学校は郷村部にあり、親や親戚の家からの通学と寄宿の両方が可能です。

新学期は8月中旬から始まります。先ず特別クラスが始まり、10日位遅れて一般のクラスが始まります。寄宿している子供は毎日06:30起床して準備体操、07:00朝食です。授業は月曜から金曜まで凡朝8:00～12:30、14:00～17:30、19:00～20:30です。土曜日は朝8:00～12:30です。厳しいスケジュールですが、塾通いしたり自習する事を考えるとそれ程でも無いようです。また子供は昼食の後、教室の机に俯せになって30分間昼寝するよう義務付けられていて、厳しいスケジュールを熟す一助になっています。

中学校は基本的に無料で、親が負担するのは補習教材や寄宿舎での食事費用位です。成都の有名中学に通う子供の親は塾通いや個人教授に多額の費用を支払っていますので、この点では丹巴の



前は川、後は急斜面の山に挟まれた校舎

子供の親は楽です(但し親は気遣って色々差し入れますが)。これも辺地に住む少数民族の優遇策の一つかも知れません。

丹巴の子供たちの学力はやっと成都の有名中学のビリ辺りで、これから「^{ジャーヨウ}加油(がんばれ)」だと息子を励ましています。寄宿生活が始まり寂しくはなりましたが、息子の身長はもう母親を追い越し、家の中での存在感が増しています。いずれ私も追い越されますが、其の頃には家を出て行ってくれる? ものと思っております。



寄宿舎の傍らに在る庭。

●大川さんのホームページはこちら

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmorong.info/>) に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入っ頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ(<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)」でご覧になれます。